

# 平成29年度 第1回 磐田市歴史文書館運営審議会

日時 平成29年8月1日(火) 13:30~15:15

場所 磐田市竜洋支所 2階 会議室

出席者 市歴史文書館運営審議会委員 7名

小杉会長 高橋副会長 鈴木潔委員 市川委員 杉浦委員 玉田委員 鈴木博雄委員

出席職員 教育委員会教育部職員 7名

村松教育長 秋野教育部長 高梨課長 木村館長 山室副主任 名倉囑託 飯田囑託

傍聴人 なし

## 議事

### 1. 報告事項

#### (1)非現用公文書等の受入選別状況について

〔事務局説明〕 (質問等はなし)

#### (2)平成28年度及び平成29年度前期(第19回)企画展について

〔事務局説明〕

〔委員〕 第18回企画展アンケート結果に「二俣の実家は神道修正派の教会であったが、そこに鯉釣の絵があった」とあるが、住所氏名等は確認できるか。

〔事務局〕 アンケートのため、名前を伺っていない。

〔委員〕 第18回企画展の実績では、歴史文書館展示室開館39日で来館者311人、磐田中央図書館8日で来館者544人となっている。提示内容は非常によいと思うが、展示場所の検討することを考えているか。

〔事務局〕 歴史文書館が支所内に設置されているため、利用が限られることもあると思うが、ほかの場所は考えていない。

〔委員〕 歴史文書館での展示を続けるのであれば、ひとりでも多くの人に見てもらおう周知活動をしたらどうか。

〔事務局〕 広報いわた、文化財だより、いわたホットライン、地元新聞など、あらゆる方法で積極的に広報活動をしている。

〔委員〕 歴史文書館が多くの人に認識されていないと思われる。市民に認識してもらうことも大事ではないか。

〔事務局〕 前回の企画展では、開催期間が同じ日数であっても入場者数は倍以上である。いろいろな広報を行い、それが市民個々の関心が合えば、多くの方が来館されるということだと考えている。職員も、ジオラマ等を作成して、目で見えてわかるような展示をするなど工夫している。そういうことを積み重ね、磐田の歴史により興味を持ってもらえるような仕掛け作りを今後も進めていきたい。

#### (3)レファレンス利用状況について

〔事務局説明〕

〔委員〕 「広報いわた昭和45年1月1日号が見たい。館では所蔵していないので代わりに『磐田のあゆみ』を閲覧された。」とあるが、広報いわたを保存しているところを教えたのか。

〔事務局〕 当館では、広報いわたを昭和31年分から保存しているが、欠けている部分が

多く、ちょうど問い合わせの箇所がない状況であったため、『磐田のあゆみ』を紹介した。本庁の担当課の紹介はしていない。

〔委員〕 電話照会とあるが、電話の問合せにも対応しているのか。

〔事務局〕 対応している。

〔委員〕 古文書の解読依頼は対応しているのか。

〔事務局〕 対応している。

〔委員〕 一覧表の備考欄に、「公文書利用職員 2 名」「公文書利用職員 3 名」との記載があるが、具体的にどういうことを表しているのか。

〔事務局〕 市職員が、歴史文書館での保存有無を問い合わせた件数で、過去の決算関係書類、道路台帳などがある。

〔委員〕 市民で利用する人はいるのか。

〔事務局〕 調査に来た方はあったが、該当文書が現用文書だったため、歴史文書館で閲覧した方は今までにはいない。

〔委員〕 徐々に出てきている行政の問題が将来大きな問題になったとき、その当時の市の対応がどうなったかを問われた際に必要になると思う。これは、歴史文書館の 2 つの側面、歴史的な文書と市の行政文書、2 つの絡み合いのある特徴的な問題点かと感じた。

#### (4)地域史料の受入れ整理状況について

〔事務局説明〕

〔委員〕 五十子自治会から寄贈された文書は、公会堂に保存してあったものか。

〔事務局〕 福田町史事業で調査のため、お預かりした。棚の中の衣装缶に入っていたもので、その後自治会のお考えで今回寄贈となった。

〔会長〕 自治会等から相談を受けたら、寄贈を勧めてほしい。

#### (5)教育事業について

〔事務局説明〕

〔委員〕 市内の各小中学校・高校へ、(歴史文書館の)施設の存在を発信しているか。

〔事務局〕 依頼を受けたとき、「ここは歴史文書館である」「私は歴史文書館の職員である」「歴史文書館は文化財課である」ことをアピールしている。また、訪問したときは、文書館の説明、来館依頼などの呼びかけを行っている。

〔委員〕 古文書解読ボランティアはどんなものを読んでいるのか、またこれを広報しているのか。

〔事務局〕 現在、ボランティアが解読している文書は、寄贈文書のうち、解読が進んでいないものである。また、それを解読後、冊子にして、地域の方に理解していただきたいと考え、校正の時間等も考慮し、時間はかかるかもしれないが進めている。

〔委員〕 全市内の小学校との連携状況はどうか。

〔事務局〕 ・文化財課全体としては、小学校へは火起こし体験等を行う訪問歴史教室、民具を持って「昔はこんな使い方をしてたよ」と説明に出かけたり、しっぺいバスを使って古墳や文化財施設を回りながら職員が説明したりなどを行っている。これらは、市の校長会で事業展開の説明や活用を促したり、文化財課担

当職員から各学校の社会科担当や担任教諭宛へ文書を送ったりして、情報を発信している。また、市内全域の児童を対象に「歴史たんけん隊」及び見付学校の昔の授業体験等も募集し、小学生のころから磐田を好きになってもらうことに一生懸命力を入れている。中学生は、職業体験を受け入れている。このレジメの記載内容は、文書館の利用をピックアップしていることをご理解いただきたい。文化財課内ではかなり多くの小中学生に利用されていると認識している。

・小学校 3.4 年生へ副読本「わたしたちのいわた」を学校教育課で作し、歴史や環境などの地域学習をしている。いろいろな観点が少しずつ広げられるようにしているが、今後も努力をしていきたいと思っている。

・中学校 1 年生には、国分寺の副読本を分けている。

## 2. 協議事項

・企画展について

(1)平成 29 年度後期(第 20 回)企画展 (仮題：遠州の俳諧)

(2)平成 30 年度前期(第 21 回)企画展

(仮題：「磐田市の近代の幕開け ～明治元年から 150 年を経て～」

又は「寺谷用水の歴史」)

〔事務局説明〕

〔委員〕 平成 29 年度後期(第 20 回)企画展の展示場所は、ワークピアか。

〔事務局〕 文書館の展示室、特別展示として「いわた俳句大会」に合わせて平成 30 年 2 月 4 日にワークピアで行う。

〔委員〕 主な展示物の中に俳諧誌とあるが、いつの時代のものを考えているか。

〔事務局〕 明治期を考えている。

〔委員〕 主な展示物の中に俳諧誌とあるが、どんなものか。

〔事務局〕 俳諧研究者の方から資料などをいただいているので、それらを参考に展示したいと考えている。

〔委員〕 「磐田地区は俳諧の盛んな地域で」とレジメに載っているが、私の在住する地区では「俳句をやっている」と聞いたことがないので、状況を知りたい。

〔事務局〕 近世近代の初めはかなり盛んで、農民が雑俳や川柳を作り、応募し、それが賞を取ると商品がもらえたので、狙って多くの方が参加したようだ。神社などへ、句の扁額が奉納されていた。

〔委員〕 神社の扁額には、明治大正のものが多いように思う。

〔委員〕 この近隣に奉納されている扁額は江戸末期から明治大正時代ではないかと思う。

〔事務局〕 いわた俳句大会が続けられるということは、支持者が多いと推測できる。また、市内の田原小学校は、子どもたちが 1 日 1 句で俳句を作っており、茶メーカーの俳句募集では受賞作があったとのことである。第一中学校でも、昨年民間への応募で受賞作が出ているとのこと。皆さん、がんばっていると思う。

- [委員] 磐田で全国から俳句が集まってきて、磐田は俳句の伝統があることを知っていただくにはいい機会だと思う。展示の仕方は、ただ並べるだけではなく、工夫し、俳句を作る人の底辺を広げることを行ったら面白い企画になるのではないかと思う。
- [事務局] 先日レファレンスに来た方から、北海道へ見付の方が投句しているという情報をいただいた。
- [委員] 平成 30 年度前期(第 21 回)企画展に関連して、寺谷村の明治改元から明治 6 年の御用留が手元にある。昔の情報伝達の流れ方、当時の地域の様子がわかる、いい資料だと思う。浜松の I 先生からいただいたものであるが、市に寄贈する。磐田市史記載の御用留と比べるのも面白いのではないかと思う。この企画で役立ててほしい。寺谷村の庄屋が、お上からの命令を全部記録した貴重な資料だと思う。
- [会長] 今年の後期は「俳諧」を、来年度は前期に「近代の幕開け」、後期に「寺谷用水関係」ということで、よろしいでしょうか。
- [委員] 「異議なし」の声あり。
- [会長] 今年の後期は「俳諧」、来年度は前期に「近代の幕開け」、後期に「寺谷用水関係」ということに決定しました。
- [委員] ホームページの進捗状況はどうか。
- [事務局] 図書館の電子図書館を利用して、当館所蔵の絵図等をデジタルアーカイブとして掲載している。今後、文書館独自のホームページを考えているが、現状としては困難な状況である。